

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「けなりい話」

「あちさんのこと、けなりがってはいけません！」（共通語訳「他人のことをうらやましがってはいけません」）

子供の頃、新潟もんなら幾度か言われたことがあることばです。

「けなり（けなりい）」とは立派な新潟弁！と思われていますが、実は全国にみられる古語のなごりです。と、偉そうに書いております私も、実はその語感から新潟ならではのことばと思っておりました。

最近、父とゆかりのあった名古屋、三河弁について興味を持ち調べていたところ、三河の古い記述に「けなり」の語を発見。「ややや！もしや、長岡の牧野の殿様とのかかわりか?!」と大騒ぎ（他人から見て小騒ぎ）して、あんげ書物こんげ古書調べていたら、ありました、ありました。

名古屋では、古くから「他人をうらやましがる」ことを「けなる」あるいは「けなりい」と称してきたといいます。

さらに名古屋近隣の福井、静岡、長野でも「けなるい」という表現がありました。もっと調べていくと「けなり」は、群馬、埼玉、大阪、岡山でもみられ、新潟独自のことばではないことが判ります。おもしろいことに、上記の地域では、それぞれその土地ならではの方言だと受け止めて地元の方言集に記載してあり、このことばが日常的に使われてきたことがうかがえます。

古語に「異（け）なり」という表現がありますが、これは文字通り「他と異なるくらい珍しい」と

いうことで、なんとあの『日本書紀』にもみられます。我が国最古の正史に登場するほどの語が各地に残り、また、その土地のことばとしてとらえられ、現代も使われていることには感動すら覚えます。

「けなり」の「珍しい」が、さらに、平安時代になると「立派な、立派だ」の意味として使われ、それが室町時代の頃には「けなりゅうて」という言い回しで、今の「うらやましい」の意味で使われだしました。

ことばは、時代と共にその意味合いが変化したり、また、とくに方言は変遷の途中でいつしか使われなくなったりして消滅していくことも多いのですが、この「けなり」が時代と共に使われ方が変化しても、各地に脈々と残り使われていることは、興味深いことです。

共通語で「うらやましい」と表現すると、その語感が「うらめしい」に似ているせいか、何となく羨望の裏に少しの妬みや嫉みといった人間心理の奥底が見え隠れしているような気もしますが、「けなり」にはシンプルな語感と意味合いが感じられます。

「けなり」は「異なり」、他人は他人、あちさんはあちさん 私は私、他人と比べず、ひるまず、もじけず、私は私の道を行く！というようにキリリとした潔さがこのことばの奥にあるように思えてきます。

